

## 2. 今年度の研究について

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、本市では令和2年3月4日(水)から5月31日(日)まで全市立学校が臨時休校となりました。政府による緊急事態宣言は5月25日に解除されたものの、小教研活動も、感染防止の観点から他校への出張等を行うことができず、顔を合わせて研究を進めることはできませんでした。けれども4月から6月にかけての休校期間中も、各常任委員がそれぞれの所属校でICTを活用して子ども達の学びを止めないための取り組みを行いました。これらの取り組みは、「ICTを活用した臨時休校中における各校の取り組み事例報告」としてまとめ、C4thを通じて全市に発信することができました。

川崎市は、「未来社会の創り手を育む かわさきGIGAスクール構想」において、1人1台分のPC端末と高速ネットワークを整備し、クラウド上で学びを蓄積したり、双方向の学びを可能にしたりすることによって、第2次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」の基本目標である「自主・自立」「共生・協働」を推進することとなりました。この流れは、OECD生徒の学習到達度調査(PISA2018)「ICT活用調査」の結果を受けた、学校現場におけるICT環境整備への関心の高まりが、新型コロナウイルスによる長期の学校休業の波を受けてさらに加速したものです。かわさきGIGAスクール構想の令和3年度運用開始を目指し、まずは令和2年10月7日に旭町小学校において、常任委員による研修を行いました。GIGA端末に実装されるミライシードを用い、今後の課題やミライシードの活用方法について意見交換し、常任委員の間で情報共有を行いました。その後、GIGAスクール構想に伴う新しい教育の提案を目指し、令和3年1月20日(水)に第一回授業研究会を予定していましたが、1月7日に発出された二回目の緊急事態宣言を受け、中止となりました。

前述した第一回授業研究会では、かわさきGIGAスクール構想を先行して実施した旭町小学校において、Google workspace for education(旧称G suite for education)の体験や、実践報告を計画しました。さらに、情報・視聴覚センターより栃木室長と石橋長期研究員を招聘し、栃木室長からは今後の見通し、石橋長期研究員からは、令和2年度ICT活用研究会議の研究「GIGAスクール構想における段階的なICT活用-学びでICTを使えるようになるための初期段階の指導-」についてお話をいただく予定でした。このように、「かわさきGIGAスクール構想」の実現に向けて、情報・視聴覚センターと連携し、川崎市全体のGIGAスクール構想を実現する一助となるような体制づくりを心がけてきました。残念ながら実現できなかった授業研究ですが、来年度の全市への発信に向けて、着実に計画し準備を進めていきたいと思っております。

**かわさきGIGAスクール構想**  
未来社会の創り手を育む かわさきの新しい教育

川崎市は令和2年度中に義務教育課程1人1台分のコンピュータ端末及び市立学校の高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、かわさき教育プランの理念である「夢と希望を抱いて生きがいのある人生を送るための 健を築く学び」を推進します。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。

**GIGAスクール構想とは**  
GIGAとは「Global and Innovation Gateway for All」の略で、Society5.0時代に生きる子どもたちの未来を見据え、1人1台分のコンピュータ端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する取組です。令和元年12月に文部科学省より打ち出されました。

小・中学校は Chromebook  
特別支援学校は iPad (小学部・中学部)

かわさきGIGAスクール構想では、個別学習、協働学習、一斉学習のどの学びにおいてもクラウドを利用し、学びを蓄積し、双方向の学びを可能にすることによって、かわさき教育プランの基本目標である「自主・自立」「共生・協働」を実現します。例えば以下のような学びが可能になります。

**未来社会の創り手を育む かわさきの新しい教育**  
**かわさきGIGAスクール構想**

学びの蓄積 クラウド 双方向の学び  
自主・自立 かわさき教育プラン 共生・協働

クラウドにある各教科等での学びがつながり、さまざまな社会課題を探究し、解決する。  
コンピュータ端末を通してさまざまな人とつながり、学ぶ中で、自分自身の在り方や生き方について考える。

インターネットにつながることで可能となる学び  
クラウドを利用することで、読書や読者とのつながり、学習活動が一層充実し、主体的・対話的で深い学びの観点からの授業改善ができる。

友達と一緒に文章やプレゼンテーションの作成をし、考えを共有しながら学び合うことができる。  
先生は一人一人の考えを自分のコンピュータ端末で把握し、適切に支援ができる。一斉学習の場面でも双方向の授業が可能になる。

一人一人の学習状況に応じた個別学習ができる。

このような学びを展開するためには、子どもたち一人一人にコンピュータ端末を使用する際のアカウント(IDとパスワード)が必要となります。川崎市では、小学校入学から中学校卒業まで、アカウントを貸与することになりました。また、学習指導要領に学習の基礎として添されている「情報活用能力」の育成にも力を入れ、子どもたちがコンピュータ端末を活用できるよう指導していきます。

令和2年11月 川崎市教育委員会事務局

【図】かわさきGIGAスクール構想について  
(川崎市教育委員会)